

博物館と記憶 "Museum and Memory"

5月18日は「国際博物館の日」です。博物館の役割を広く人々に知っていただくため、1977年に国際博物館会議(ICOM: The International Council of Museums)において、この日を国際博物館の日としました。

以来、毎年ICOMがテーマを設定し、この5月18日を中心に世界中の博物館が無料入館やイベントなど様々な記念行事を行ってきています。

日本でも、2002年に初めてこれに参加して以来、多くの博物館が種々の記念事業を実施してきており、今年はその第10回目にあたる節目の年になります。

今年、ICOMが設定した国際博物館の日のテーマは、「博物館と記憶 "Museum and Memory"」です。人々の記憶を保存し物語を伝える役割を持つ博物館を通じて、世界中の多様な文化・自然・遺産・民俗等について理解し、守り、活用することにより、来館者がいろいろなことを感じたり、発見したり、考えたりする契機になることが望まれています。

こうした状況の下、日本では、各博物館の取り組みとして、例えば無料開館や開館時間の延長や他の博物館との連携事業、さらには地域や街との連携イベントなどが、この5月18日を中心に、ゴールデンウィークから5月末まで約1ヶ月にわたって予定されています。

また、今年には特に第10回を記念して、新たに小学生、中学生を対象にした「国際博物館の日記念作文コンクール」を実施することとし、5月18日にその優秀作品の発表を行うこととしています。

今回の「国際博物館の日」を契機として、全国の博物館は、博物館の存在を社会にアピールできるよう、さらに魅力的で多様な事業を展開していきます。是非多くの方が博物館に来館され、博物館を楽しんでいただければと思います。

財団法人日本博物館協会長
国際博物館の日実行委員長

銭谷 眞美
折原 守